

รายงานการอบรมโครงการ 2017 – 2018 Long-Term Training Program for Foreign Teachers of the Japanese Language ณ เจแปนฟาวน์เดชัน ศูนย์ภาษาญี่ปุ่น อูราวะ จังหวัดไซตามะ ประเทศญี่ปุ่น



อาจารย์ ภัสพร ธาราสุข
สำนักวิชาพื้นฐานและภาษา
สถาบันเทคโนโลยีไทย-ญี่ปุ่น

กำหนดการฝึกอบรม

2017年度 長期研修時間割

Bコース時間割

2018/3/1

	月 9/4	火 9/5	水 9/6	木 9/7	金 9/8	土 9/9	日 9/10
(1)							
9:30	研修参加者来日	研修参加者来日	9:30-11:00 生協オリエンテーション 11:00-11:30 開講式 11:30-12:30 研修オリエンテーション 個人写真撮影 [ホール]	9:30-12:00 プレス向け対話(筆記B) 関くテスト、読心テスト [ホール]	9:30-11:30 プレス向け対話(作文) 押尾・木村 [9/10・ホール]		
12:20							
13:45			13:45-18:30 プレス向け対話(筆記AB) 関くテスト、読心テスト [ホール]	13:30- No.1-20 施設案内・図書館 オリエンテーション No.21-40 図書館オリエンテーション - 施設案内 19:00- はしご訓練	12:30-18:00 プレス向け対話(会話) [2-5-6-7-8-9/10-11-12-13-14] 有馬・木田・山下		
15:35							
(2)	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	9/16	9/17
9:30	【文化体験プログラム】 埼玉見学	PC講習説明 押尾 文化体験プログラム説明 小野 [ホール]	12:30(12:45開始) 授業オリエンテーション 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	教授法1 教授法3-4合同 木田 [14]	読解 3 押尾 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45		【PC講習】①オリエンテーション 古原 [CL] 13:30-14:30 (No.1-20) 14:45-15:45 (No.21-40)	仲間づくりVWS 浅井・小松 [16.17] 13:30- (異数No.) 15:40- (奇数No.)	作文 3 大船 [7] 4 有馬 [14]	13:45- 自習学習オリエンテーション 13:45- Bコース 木田 [14] 14:45- 漢字・読解 山下・木田 [3] 漢字テスト		
15:35				16:00- 【PC講習】②word 古原 [CL]			
(3)	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	9/23	9/24
9:30	職者の日	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	口語表現 3 柴田 [7] 4 篠原 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	読解 3 押尾 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45		選択科目1 「映画」 篠原 [7] 「映像表現」 白井 [14]	図書館蔵書検索/ 電子ブック説明会 坂井・大久保 [CL] 13:45- 15:30-	作文 3 大船 [7] 4 有馬 [14]	浴衣遊び 小野 [7] 13:30- (No.21-40) 15:40- (No.1-20)		
15:35		16:00-17:30 交通安全講座 [ホール]		16:00- 【PC講習】③PPT 古原 [CL]			
(4)	9/25	9/26	9/27	9/28	9/29	9/30	10/1
9:30	【文化体験】 茨城県	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	口語表現 3 柴田 [7] 4 篠原 [14]	教授法1 3-4合同 [14] 木田・押尾	読解 3 押尾 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45		選択科目1 「映画」 篠原 [7] 「映像表現」 白井 [14]	13:45 写真撮影(全体) [ロビー] もっと知って! 説明会 有馬・木村 [ホール]	作文 3 大船 [7] 4 有馬 [14]	【特別授業】 相模入門 上原 [ホール] (中国大学と合同)		
15:35							
16:00-17:00	自習学習/漢字クイズ	17:00-18:00 ティーパーティー[ホール]		16:00-17:30 慶応大学との交流会 小野 [ホール]			

	月 10/2	火 10/3	水 10/4	木 10/5	金 10/6	土 10/7	日 10/8
9:30 午前	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 中尾 [14]	大規模	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	読解 3 渡田 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45 午後	HL/個別指導 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	選択科目1 B「英音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]		作文 3 大船 [7] 4 栗島 [14]	14:00-16:00 高野訓練 小野		
15:35	16:00-17:00 自律学習/漢字クイズ			16:00- 【PC講習】④-1Webサイト 古原 [DL]	16:00- 【PC講習】④-2Webサイト 古原 [DL]		
(5)	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15
9:30 午前	体育の日	文法講習 3 押尾 [7] 4 中尾 [14]	口頭表現 3 柴田 [7] 4 藤原 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	読解 3 渡田 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45 午後		選択科目1 B「英音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]	【文化体験プログラム】 若衣着付け [ホール]	作文 3 大船 [7] 4 栗島 [14]	14:00-16:00 【文化体験プログラム】 茶道 [ホール・市学室]		
15:35	16:00- ストレスマネジメントWS① 浅井 [ホール]			16:00- 【PC講習】⑤-1動画編集 古原 [DL]			
(7)	10/16	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22
9:30 午前	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	口頭表現 3 柴田 [7] 4 藤原 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	読解 3 渡田 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45 午後	HL/個別指導 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	選択科目1 B「英音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]	【特別授業】② 書道ワークショップ 内田 [ホール]	作文 3 大船 [7] 4 栗島 [14]	もっと知って発表会準備 木村・木田 [ホール]		
15:35	16:00-17:00 自律学習/漢字クイズ	16:30-18:00 あいたま市民との交流会 [ホール]	16:00 高野訓練説明会 小野 [ホール]	16:00- 【PC講習】⑤-2動画編集 古原 [DL]			
(8)	10/23	10/24	10/25	10/26	10/27	10/28	10/29
9:30 午前	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	口頭表現 3 柴田 [7] 4 藤原 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	読解 3 渡田 [7] 4 有馬 [14]		
12:20							
13:45 午後	HL/個別指導 教授法3 押尾 [7] 教授法4 木田 [14]	選択科目1 B「英音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]	13:45- 【特別授業】② もっと知って、私のこと・ 私の授業委員会 [ホール] 有馬・木村・山下・押尾・木田	作文 3 大船 [7] 4 栗島 [14]			
15:35	16:00-17:00 自律学習/漢字クイズ						

日	月	火	水	木	金	土	日
(9)	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4	11/5
9:30 午前	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 本田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	【文化体験プログラム】 高校訪問 [七草高校]	教授法1 3-4合同 [14] 本嶋	文化の日		
12:45 午後	HR/個別指導 教授法3 押尾 [7] 教授法4 本田 [14]	選択科目1 B「発音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]		作文 3 大松 [7] 4 築島 [14]			
15:35	16:00-17:00 自習学習/漢字クイズ						
(10)	11/6	11/7	11/8	11/9	11/10	11/11	11/12
9:30 午前	教授法1 本嶋 3-4合同 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	口頭表現 3 柴田 [7] 4 藤原 [14]	教授法1 本嶋 3-4合同 [14]	読解 3 渡田 [7] 4 有馬 [14]	【文化体験プログラム】 ホームステイ	
13:45 午後	HR/個別指導 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	選択科目1 B「発音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]		作文 3 大松 [7] 4 築島 [14]	13:45- 地方研修(日光)説明会 小野(ホール)		
15:35	16:00-17:00 自習学習/漢字クイズ	16:00- ホームステイ説明会 [ホール]					
(11)	11/13	11/14	11/15	11/16	11/17	11/18	11/19
9:30 午前	教授法1 押尾・本田 3-4合同 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	口頭表現 3 柴田 [7] 4 藤原 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 本田 [14]	読解 3 渡田 [7] 4 有馬 [14]	【特別授業】④ ④LPT説明会 辻見	
13:45 午後	HR/個別指導 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	選択科目1 B「発音」 藤原 [7] B「映像視聴」 白井 [14]	各科目説明会	作文 3 大松 [7] 4 築島 [14]	Bコース 15:15-16:30 [9/10]		
15:35	16:00-17:00 自習学習/漢字クイズ						
(12)	11/20	11/21	11/22	11/23	11/24	11/25	11/26
9:30 午前	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 本田 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 本田 [14] CL	口頭表現 3 柴田 [7] 4 藤原 [14]	自分感謝の日	地方研修 (日光)	地方研修 (日光)	
13:45 午後	HR/個別指導 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	教授法1 教授法3 押尾 [7] 教授法4 本田 [14] CL					
15:35	16:00-17:00 自習学習ふりまわり						

	月	火	水	木	金	土	日
(13)	11/27	11/28	11/29	11/30	12/1	12/2	12/3
9:30	観望演講 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	9:30~10:00 日本語授業オリエンテーション 日本語3クラス押尾 [7] 日本語4クラス木田 [14]	2学期授業開始	教授法1 木田・押尾 3-4合同 [14]	『まるごと中級1-2』体験② 3 藤井 [7] 4 篠崎 [14]		
12:45			観望演講 3 押尾 [7] 4 木田 [14]				
(14)	12/4	12/5	12/6	12/7	12/8	12/9	12/10
9:30	教授法1 有馬 3-4合同 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	『まるごと中級1-2』体験④ 3 藤井 [7] 4 篠崎 [14]	教授法1 木田・押尾 3-4合同 [14]	『まるごと中級1-2』体験⑤ 3 藤井 [7] 4 篠崎 [14]		
12:45							
15:35	16:00-17:00 自修学習/漢字クイズ	16:00- ストレスマネジメントWS②* 建谷 [ホール]					
(15)	12/11	12/12	12/13	12/14	12/15	12/16	12/17
9:30	教授法1 押尾・木田 3-4合同 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	総合日本語 3 藤井 [7] 4 生田 [14]	教授法1 押尾・木田 3-4合同 [14]	総合日本語 3 押尾 [7] 4 生田 [14]		
12:45							
15:35	14:00-17:00 自修学習/漢字クイズ						
(16)	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24
9:30	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	総合日本語 3 藤井 [7] 4 生田 [14]	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	冬休み	冬休み
12:45							
15:35	16:00-17:00 自修学習/漢字クイズ						

(17)	月 12/25	火 12/26	水 12/27	木 12/28	金 12/29	土 12/30	日 12/31
午後	冬休み	冬休み	冬休み	冬休み	冬休み	冬休み	大みそか
(18)	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5	1/6	1/7
午前	元旦	冬休み	冬休み	冬休み	【特別授業】① 日本の古正月習俗 有馬、押尾、本田、木村、山下 【ホール】 小学校訪問説明会 【ホール】		
(19)	1/8	1/9	1/10	1/11	1/12	1/13	1/14
午前	成人の日	文法講習 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	総合日本語 3 鎌谷 [7] 4 米谷 [14]	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	総合日本語 3 鎌谷 [7] 4 米谷 [14]		
		総合日本語 3 押尾 [7] 14:00開始 4 本田 [14]	14:00 荷物送付 (1回目) ロビー	選択科目Ⅲ B「現代社会」鎌谷 [7] B「英語研究」米谷 [14]	【特別授業】② 「エリンが挑戦！」習俗 にほんごで書きます。JWB 栗石 [DL]		
(20)	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
午前	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	【文化体験プログラム】 小学校訪問 (大久保東小、道徳土小、 新開小)	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	総合日本語 3 米崎 [7] 4 上原 [14]		
午後	HPL/個別指導 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	総合日本語⇒教授法 3 鎌谷 [7]⇒押尾、個別面談 4 上原 [14]⇒本田 個別面談		選択科目Ⅲ B「現代社会」鎌谷 [7] B「英語研究」米谷 [14]			
15:35	16:00-17:00 自律学習/漢字クイズ	14:00- ストレスマネジメントWS②* 漢字【ホール】					
(21)	1/22	1/23	1/24	1/25	1/26	1/27	1/28
午前	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 二瓶 [14]	総合日本語 3 米崎 [7] 4 藤崎 [14]	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	総合日本語 3 米崎 [7] 4 藤崎 [14]		
午後	HPL/個別指導 3 押尾 [7] 4 本田 [14]	総合日本語 3 米崎 [7] 4 上原 [14]	14:00-16:00 【文化体験プログラム】 和太鼓 【ホール】	選択科目Ⅲ B「現代社会」鎌谷 [7] B「英語研究」米谷 [14]			
15:35	16:00-17:00 自律学習/漢字クイズ	16:00-17:00 ティーパーティー【ホール】					

	月 1/29	火 1/30	水 1/31	木 2/1	金 2/2	土 2/3	日 2/4
9:30 午前	教授法Ⅱ 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 二瓶 [14]	総合日本語 3 道谷 [7] 4 有馬 [14]	教授法Ⅲ 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	総合日本語 3 道谷 [7] 4 有馬 [14]		
12:45 午後	HR/個別指導 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	総合日本語 3 道谷 [7] 4 有馬 [14]		選択科目Ⅱ 9「現代社会」道谷 [7] 8「実践研究」木田 [14]			
15:20	16:00-17:00 漢字テスト 【ホール】	16:00-17:20 地方研修-韓国訪問会 【ホール】		【特別授業】⑩ JFL-AFL 漢語圏者の職業報告 道谷 [7]			
2/5	2/5	2/5	2/5	2/5	2/5	2/5	2/5
9:30 午前	教授法Ⅱ 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	文法講習 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	総合日本語 3 末崎 [7] 4 有馬 [14]	教授法Ⅳ 3 押尾 [7] 4 木田 [14] *レポートなどの作業日	総合日本語 3 末崎 [7] 4 有馬 [14]		講義 記念の日
12:45 午後	HR/個別指導 3 押尾 [7] 4 木田 [14]	総合日本語 3 末崎 [7] 4 有馬 [14]		選択科目Ⅱ 9「現代社会」道谷 [7] 8「実践研究」木田 [14]	【特別授業】⑪ 漢語 道谷 [7]		
15:20 (24)	16:00-17:00 自修学習 家とめ作業						
2/12	2/12	2/12	2/12	2/12	2/12	2/12	2/12
9:30 午前	研修休日	ポートフォリオ整理/ アンケート記入 自修学習振り返り 3 押尾 [7] 4 木田 [14] 9:30~10:30 集合 *提出物の確認など	9:30-12:30 終了試験(筆記B) 聞くテスト、読むテスト 【ホール】	9:30-12:30 終了試験(筆記AB) 聞くテスト、読むテスト 【ホール】	9:30~ 各クラス 全員集合 研修ふり振り返り 3 押尾 [7] 4 木田 [14]		
12:20							
12:45 午後		14:00-15:20 修士コースについて 【ホール】 ★15:30 締め切り厳守! 教授法ポートフォリオ 提出 日本語ポートフォリオ 提出 16:30-17:10 基会事業説明 自修研修チーム 自研開発チーム 【ホール】	終了試験(会話テスト) 【1-3-6-7-9-9/10-12-14-16-17】 木田・山下 別紙参照	終了試験(作文) 押尾・木田 【4番】 12:45~15:15	【特別授業】⑫ 日本の地理と歴史 小野 [3] (長期研修 最終授業)		
15:20					*16:20授業アンケート締切		
2/18	2/18	2/18	2/18	2/18	2/18	2/18	2/18
9:30 午前	地方研修 (関西)	地方研修 (関西)	地方研修 (関西)	地方研修 (関西)	個別面談		
12:45 午後					個別面談		
2/26	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3	3/4
9:30 午前	個別面談	自主研修	9:30-10:20 最終HR [B, 9/10, X, 14] 10:30-11:30 修了式【ホール】 11:30-12:30 文化体験委員会【ホール】	韓国研修	研修参加者韓国		
15:00 午後	(荷物送付 2回目)	15:00- 韓国前WS 道井・小坂【ホール】	18:00-19:00 歓迎会【ホール】				

29NCE492

研修参加者番号 No. 11

平成29年度(2017年度)

海外日本語教師長期研修

2017-2018 Long-Term Training Program for Teachers of the Japanese-Language

成績証明書

Transcript

履修証明書

Certificate

氏名：ターラースック パッサポーン

Name : THARASUK PASPORN



JAPANFOUNDATION

独立行政法人 国際交流基金

日本語国際センター

The Japan Foundation

Japanese-Language Institute, Urawa



国際交流基金

29NCE485

修了証書
CERTIFICATE

ターラースック パッサポーン
タイ王国
(生年月日: 1991年12月30日)

THARASUK PASPORN
Kingdom of Thailand
(Date of Birth: December 30, 1991)

上記の者は「平成29年度海外日本語教師長期研修」の全課程を修了したことを証します。

This is to certify that the person above has successfully completed the "2017-2018 Long-Term Training Program for Teachers of the Japanese-Language" conducted by The Japan Foundation Japanese-Language Institute, Urawa.

平成30年3月2日
March 2, 2018

国際交流基金日本語国際センター
所長

新川裕一

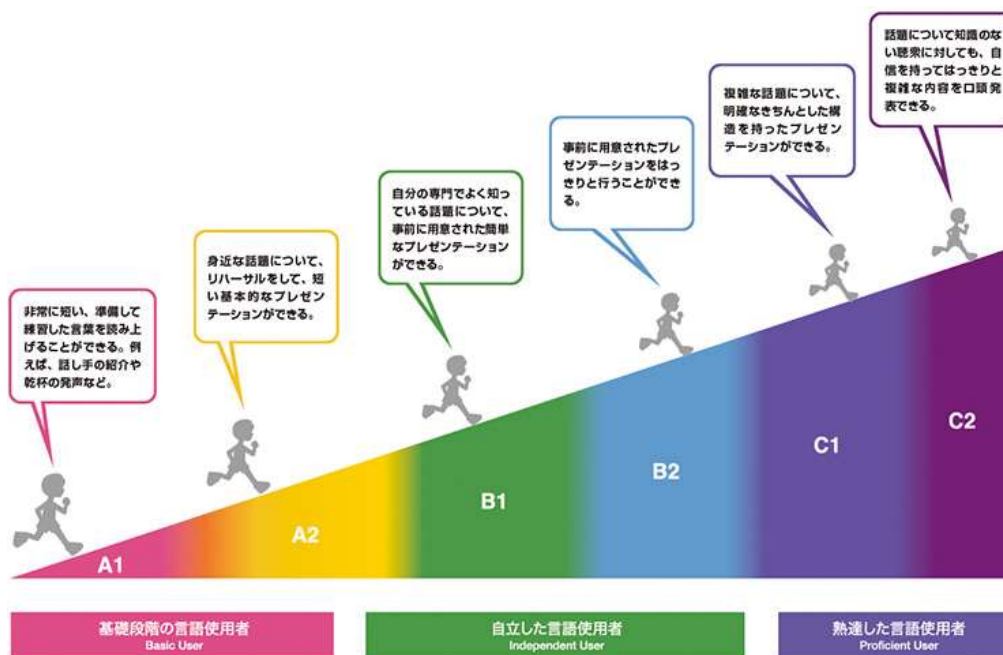


SUNAKAWA, Yuichi
Executive Director
The Japan Foundation
Japanese-Language Institute, Urawa

โครงการ 2017 – 2018 Long-Term Training Program for Foreign Teachers of the Japanese Language ในครั้งนี้ มีผู้เข้าร่วมจำนวน 40 คนจาก 27 ประเทศ โครงการระยะเวลา 6 เดือน นั้นแบ่งออกเป็น 2 ภาคการศึกษา โดยภาคการศึกษาที่ 1 เริ่มตั้งแต่วันที่ 13 กันยายน – 22 พฤศจิกายน 2560 และภาคการศึกษาที่ 2 เริ่มตั้งแต่วันที่ 29 พฤศจิกายน 2560 – 16 กุมภาพันธ์ 2561 โดยมี รายละเอียดของโครงการดังนี้

การจัดระดับชั้นเรียนของผู้เข้าอบรม

ก่อนเริ่มการอบรม ทางเจแปนฟาวนด์ชัน ได้จัดการสอบข้อเขียนและการสอบสัมภาษณ์ ภาษาญี่ปุ่นตั้งแต่วันที่ 6 – 8 กันยายน 2560 เป็นระยะเวลา 3 วัน เพื่อนำผลการทดสอบมาจัดชั้นเรียน ให้เหมาะสมกับผู้เข้าอบรมตามเกณฑ์ของ JF Standard for Japanese-Language Education ซึ่งมี 3 ระดับใหญ่ 6 ระดับย่อย คือ Basic User (A1 และ A2) Independent User (B1 และ B2) และ Proficient User (C1 และ C2) คอร์สเรียนแบ่งออกเป็น 2 คอร์สใหญ่ คือ คอร์ส A (A1 และ A2) กับ คอร์ส B (B1 และ B2) จากผลการทดสอบออกมาว่าได้เข้าอบรมในคอร์ส B1



แผนผัง JF Standard for Japanese-Language Education

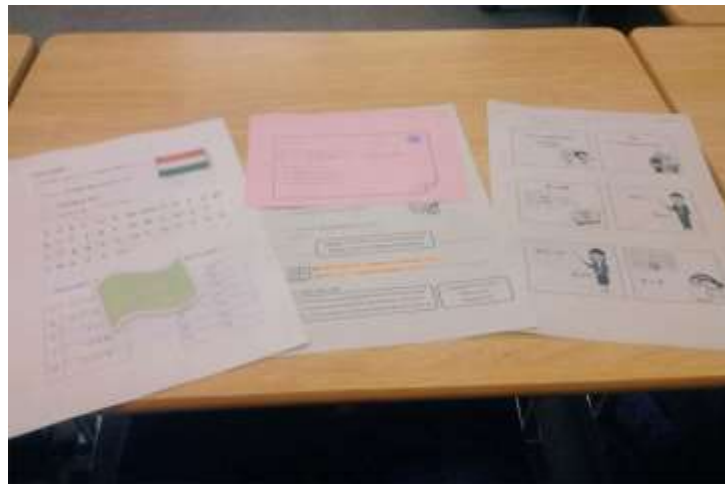
วิชาต่าง ๆ ในชั้นเรียน

ภาคการศึกษาที่ 1

วิชาบังคับ

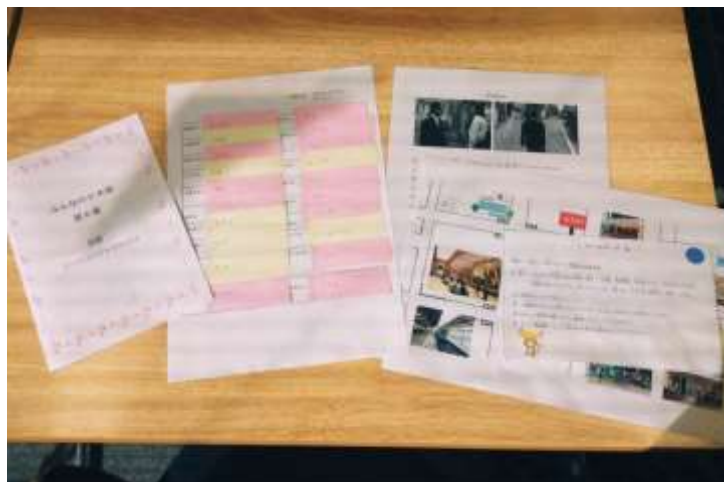
1. วิชาทฤษฎีการสอน 1 (教授法 I)

ในส่วนของวิชาทฤษฎีการสอนนั้น คอร์ส B ได้แยกเป็น 2 ห้อง ห้องละ 10 คน ซึ่งคนละกลุ่มกับกลุ่มที่เรียนภาษาญี่ปุ่น ในส่วนของตัวเองนั้นอยู่ห้อง 4 ซึ่งรับผิดชอบโดยอาจารย์คิตะ มารี (木田 真理) วิชานี้เรียนเกี่ยวกับทฤษฎีการสอนที่มีประสิทธิภาพ โดยเริ่มจากการวางแผนประมวลรายวิชาการเขียนแผนการสอน และการลำดับขั้นตอนการสอนที่ดี ช่วงท้ายของภาคการศึกษาที่ 1 จะเป็นการให้ทุกคนได้จำลองคาบเรียนอย่างย่อเพื่อทดสอบความเข้าใจตลอดทั้งภาคการศึกษาที่ 1 เริ่มจากการทดลองสอนภาษาประจำชาติของตัวเอง 3 คน ซึ่งเป็นของผู้เข้าอบรมจากประเทศฮังการี บัลแกเรีย และพม่าภายในเวลา 30 นาที



เอกสารประกอบการเรียนของคาบเรียนการทดลองสอนภาษาประจำชาติ

กลุ่มที่สอง เป็นการทดลองสอนจากบางส่วนของลำดับขั้นตอนการสอนแบบ PCPP ภายในเวลา 25 นาที เริ่มจากผู้เข้าอบรมจากประเทศอุสเบกิสถานกับ PC (Presentation&Comprehension) อินเดียวกับ P (Practice) และรุ่นพี่คนไทยกับ P (Production)



เอกสารประกอบการเรียนของการจำลองคาบเรียนจากลำดับขั้นตอนการสอนแบบ PCPP (รอบแรก) และกลุ่มที่สามในสัปดาห์สุดท้าย เริ่มจากผู้เข้าอบรมจากประเทศบราซิลกับ PC (Presentation&Comprehension) เวียดนามกับอินโดนีเซียกับ P (Practice) และตัวเองกับ P (Production)



เอกสารประกอบการเรียนของการจำลองคาบเรียนจากลำดับขั้นตอนการสอนแบบ PCPP (รอบสอง)

2. วิชาไวยากรณ์ (文法演習) (ตลอดทั้งสองภาคการศึกษา)

สำหรับคาบเรียนไวยากรณ์นั้นจะเรียนกับกลุ่มที่แบ่งตามความสามารถทางภาษาญี่ปุ่นตามเกณฑ์ JF Standard for Japanese-Language Education ซึ่งก็คือคอร์ส B1 (ห้อง 3) ซึ่งมีผู้เข้าอบรมจำนวน 10 คน ได้แก่ ชาวไทย 3 คน ชาวเวียดนาม 2 คน ชาวกัมพูชา 1 คน ชาวอินโดนีเซีย 1 คน ชาวอิหร่าน 1 คน ชาวฮังการี 1 คน และชาวเม็กซิโก 1 คน รับผิดชอบโดยอาจารย์โอชิโอะ คาสุมิ (押尾 和美)

วิชาไวยากรณ์เป็นวิชาเดียวที่ครอบคลุมตลอดทั้ง 2 ภาคการศึกษา โดยในภาคการศึกษาที่ 1 คาบเรียนจะแบ่งเป็นสองส่วนคือ ส่วนแรก เรียนเกี่ยวกับไวยากรณ์ชั้นกลาง – สูงในมุมมองของผู้เรียน เพื่อพัฒนาทักษะด้านไวยากรณ์ของตนเองให้สูงขึ้น และในส่วนที่สอง เรียนเกี่ยวกับไวยากรณ์ขั้นต้น – กลางในมุมมองของผู้สอน เจาะลึกไวยากรณ์เหล่านั้น เพื่อที่จะสามารถนำไปสอนและอธิบายให้ผู้เรียนของผู้เข้าอบรมแต่ละคนเข้าใจได้

ในภาคการศึกษาที่สอง คาบเรียนยังคงแบ่งเป็นสองส่วนเช่นเดิม แต่ในส่วนแรกนั้น ได้มีการเปลี่ยนจากการเรียนไวยากรณ์ชั้นกลาง – สูง เป็นการฟังบทความสั้น ๆ แล้วให้เขียนใหม่ในแบบของตัวเองให้ใจความสมบูรณ์ที่สุด (ディクトグロス) ทำให้ได้ใช้ไวยากรณ์ที่ตัวเองรู้ในการเขียนบทความใหม่ รวมทั้งเรียนรู้ไวยากรณ์ใหม่ ๆ จากบทความต้นฉบับและบทความที่ตัวแทนผู้เข้าร่วมออกมาเขียนให้ดูด้วย

สิ่งที่ได้รับจากวิชานี้ นอกจากจะเพิ่มพูนความรู้ด้านไวยากรณ์ของตัวเองให้มากขึ้นแล้ว ไวยากรณ์ขั้นพื้นฐานที่คิดว่าตัวเองรอบรู้พอ ที่จริงแล้วยังมีจุดที่ไม่เคยสังเกตหรือไม่รู้อีกมากมาย ทำให้มีความเฉลียวใจ และตั้งข้อสงสัยในมุมมองของผู้เรียน เพื่อที่จะหาคำตอบในมุมมองของผู้สอนได้



ตำราเรียนที่ใช้ในคาบเรียนวิชาไวยากรณ์



ภาพถ่ายรวมกับอาจารย์และผู้เข้าร่วมอบรมห้อง 3 ในคาบเรียนวิชาไวยากรณ์

3. วิชาการพูด (口頭表現)

สำหรับคาบเรียนการพูด รับผิดชอบโดยอาจารย์ชิบาตะ ซาจิโกะ (柴田 幸子) วิชานี้เรียนเกี่ยวกับการพูดในโอกาสต่าง ๆ เช่น การพูดสุนทรพจน์ การอภิปราย การนำเสนอ ซึ่งจะเริ่มต้นด้วยการให้ฝึก shadowing หรือการพูดตามไฟล์เสียงที่เปิดให้ฟัง เพื่อวอร์มปากและเสียงก่อน รวมถึงสามารถฝึกการออกเสียงและจังหวะจะโคนในการพูดได้ ก่อนจะเข้าสู่รายละเอียดของรูปแบบการพูด ส่วนวนที่ใช้ในแต่ละหัวข้อ และปิดท้ายด้วยการให้ปฏิบัติจริงหน้าห้องเรียนตอนจบหัวข้อนั้น ๆ



ตำราเรียนที่ใช้ในคาบเรียนวิชาการพูด



ภาพการนำเสนอในหัวข้อ “สถานที่ที่อยากแนะนำให้รู้จัก”

4. วิชาการเขียน (作文)

สำหรับวิชาการเขียน รับผิดชอบโดยอาจารย์โอฟุเนะ จิซาโตะ (大船 ちさと) วิชานี้เรียนเกี่ยวกับการเขียนในบริบทต่าง ๆ เช่น บันทึกรประจำวัน การชักชวนและการตอบการชักชวนทางอีเมล การเขียนแนะนำหนังสือ ซึ่งโยงมาจากบันทึกการอ่านนอกเวลาของคาบการอ่าน และการเขียนเรียงความ ที่ใช้หัวข้อจริงที่กำลังจัดการประกวดอยู่ ซึ่งหลังจากได้รับการตรวจทานจากอาจารย์แล้ว อาจารย์ก็สนับสนุนให้ส่งลงแข่งไปด้วย



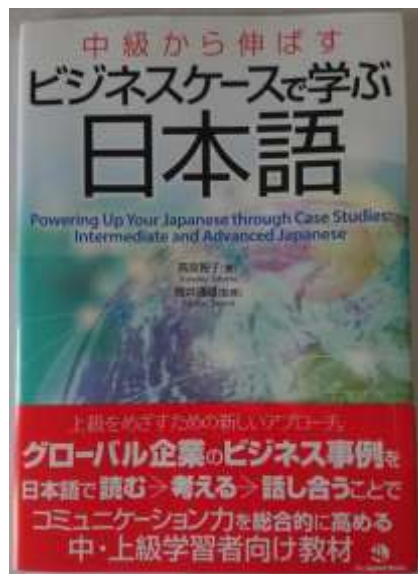
ตำราเรียนที่ใช้ในคาบเรียนวิชาการเขียน



ภาพหมู่กับอาจารย์ผู้สอนและผู้เข้าอบรมห้องเดียวกัน

5. วิชาการอ่าน (読解)

สำหรับวิชาการอ่าน รับผิดชอบโดยอาจารย์ฮามาตะ โนริโกะ (濱田 典子) วิชานี้เรียนเกี่ยวกับการอ่าน 3 รูปแบบ โดยแบ่งเป็น การอ่านเน้นจำนวนเล่ม (多読) ซึ่งอาจารย์มอบหมายให้เป็นการอ่านนอกเวลา แล้วเขียนบันทึกคร่าว ๆ รายงานว่าอ่านไปกี่เล่ม เรื่องอะไรบ้าง ถัดมาเป็นการอ่านเร็ว (速読) ซึ่งอยู่ในช่วงคาบแรกของชั่วโมงเรียน เน้นกลวิธีการอ่านที่เร็ว แต่เก็บใจความได้ครบและเข้าใจว่าต้องการสื่ออะไร เช่น การกวาดสายตา การเก็บคีย์เวิร์ด การเดาภาพรวมของเรื่องจากบริบทข้างเคียง การตั้งคำถาม 5W1H เป็นต้น และสุดท้ายเป็นการอ่านอย่างละเอียด (精読) ซึ่งอาจารย์ได้เลือกบทความที่ให้ผู้เรียนอ่านจากตำราที่ใช้ในคาบจากผลการโหวตของผู้เรียนเอง เป็นการอ่านเพื่อทำความเข้าใจ สามารถตอบคำถามและอภิปรายต่อยอดในกลุ่มได้ นอกจากนี้จะได้ปลูกฝังความคุ้นเคยต่อหนังสือภาษาญี่ปุ่นและพัฒนาทักษะด้านการอ่านภาษาญี่ปุ่นแล้ว ยังได้กลวิธีการสอนและกิจกรรมที่ใช้ประยุกต์สอนกับคาบการอ่านจากอาจารย์ผู้สอนเช่นกัน



ตำราเรียนที่ใช้ในคาบเรียนวิชาการอ่าน



ภาพหมู่กับอาจารย์ผู้สอนและผู้เข้าอบรมห้องเดียวกัน

วิชาเลือก

มี 2 วิชา คือ การออกเสียงภาษาญี่ปุ่น (発音) กับการเรียนภาษาญี่ปุ่นจากสื่อต่าง ๆ (映像視聴) โดยตัวเองเลือกเรียนวิชาการเรียนภาษาญี่ปุ่นจากสื่อต่าง ๆ รับผิดชอบโดยอาจารย์ชิราอิ เค (白井 桂) โดยเปิดสื่อต่าง ๆ ให้รับชมรับฟัง เช่น โฆษณา ข่าว เพลง ละคร รายการโทรทัศน์ ตัวอย่างภาพยนตร์ แล้วอภิปรายเกี่ยวกับสื่อเหล่านั้น ๆ ว่าเข้าใจมากน้อยแค่ไหน แนะนำวิธีการรับสารและพื้นความรู้เพื่อที่จะเข้าใจสารในสื่อเหล่านั้น ๆ



ภาพหมู่กับอาจารย์ผู้สอนและผู้เข้าอบรมห้องเดียวกัน

ภาคการศึกษาที่ 2

วิชาบังคับ

1. วิชากลวิธีการสอน 2 (教授法 II)

สำหรับภาคการศึกษาที่ 2 นั้น ได้เน้นไปที่ความหลากหลายของสื่อการสอน กิจกรรมที่ทำให้ผู้เรียนมีความสนใจหรือเข้าใจได้ง่ายขึ้น ไม่ว่าจะเป็นการสอนตัวอักษร หรือการสอนวัฒนธรรมญี่ปุ่น ไปจนถึงวิธีการประเมินการสอนและประเมินผู้เรียน ในช่วงท้ายภาคการศึกษาที่ 2 ได้มีการจำลองคาบเรียนเหมือนกับภาคการศึกษาที่ 1 แต่ครั้งนี้เป็นแบบเต็มรูปแบบ 45 นาที โดยใช้ลำดับขั้นตอนการสอนแบบ PCPP สำหรับผู้ที่อยากทดลองสอนไวยากรณ์ และกลวิธีอื่น ๆ สำหรับผู้ที่อยากทดลองสอนคำศัพท์ คำนจ หรือวัฒนธรรมญี่ปุ่น ทำให้ผู้เข้าอบรมได้ลองใช้สิ่งที่เรียนไปกับคาบเรียนที่ตัวเองรับผิดชอบอยู่แล้ว หรืออยากที่จะเปิดสอนในอนาคต สิ่งที่ได้รับจากวิชานี้ ไม่ใช่แค่สามารถเอาไปปรับปรุงวิธีการสอนของตัวเองเท่านั้น แต่สามารถนำไปใช้ประกอบการวางโครงสร้างเปิดรายวิชาใหม่ได้เลย



ภาพบรรยากาศการจำลองคาบเรียน



ภาพหมู่กับอาจารย์ผู้สอนและผู้เข้าอบรมห้องเดียวกัน

2. วิชาภาษาญี่ปุ่นโดยรวม (総合日本語)

ต่างจากภาคการศึกษาที่ 1 ที่แยกวิชาญี่ปุ่นไปตามทักษะต่าง ๆ ในภาคการศึกษาที่ 2 ได้ยุบรวมเป็นวิชาทักษะภาษาญี่ปุ่นเชิงภาพรวม ซึ่งแบ่งออกเป็น

- คาบทดลองเรียนตำรามารุโกโตะ (まるごと)
- Music Portrait
- เทศกาลประจำปี (年中行事)
- การศึกษาของญี่ปุ่น (教育)
- ประวัติศาสตร์ญี่ปุ่น (日本史)
- การเล่นคำในภาษาญี่ปุ่น (言葉遊び)
- การเข้าใจความแตกต่างทางวัฒนธรรม (相互理解)

คาบทดลองเรียนตำรามารุโกโตะ (まるごと)

รับผิดชอบโดยอาจารย์สองท่าน คือ อาจารย์ฟูจินากะ คาโอรุ (藤長 かおる) และ อาจารย์อิโซมูระ คาสึโระ (磯村 一弘) เป็นคาบเรียนที่ให้ผู้เข้าอบรมได้ลองสัมผัสกับหนังสือเรียนมารุโกโตะ ซึ่งเป็นซีรี่ย์ตำราเรียนภาษาญี่ปุ่นตัวใหม่ของ Japan Foundation โดยทำการโหวตจากทุกคนมาหนึ่งบท และลองเรียนในฐานะผู้เรียนดูว่าเป็นอย่างไร ทำให้รู้วิธีการใช้ และลำดับการสอนสำหรับหนังสือชุดนี้



ซีรี่ย์ตำราเรียนมารุโกโตะ ซึ่งแบ่งระดับตาม JF Standard for Japanese-Language Education

Music Portrait

รับผิดชอบโดยอาจารย์ฮามาตะ โนริโกะ (濱田 典子) วิชานี้มีแรงบันดาลใจมาจากรายการโทรทัศน์ญี่ปุ่นภายใต้ชื่อเดียวกัน โดยมีเนื้อหาเกี่ยวกับศิลปินหรือดาราสองคนมานั่งจับเข่าคุยกัน เล่าเรื่องความทรงจำหรือช่วงชีวิตหนึ่ง พร้อมกับเพลงที่ตรงกับเนื้อหาของเรื่องราวนั้น ๆ ในคาบเรียน อาจารย์ให้ทุกคนเลือกเพลงที่ทำให้นึกถึงเรื่องราวช่วงหนึ่งในชีวิตขึ้นมา แล้วจับคู่กับเพื่อนเล่าเรื่องราวนั้นให้ฟัง ว่าทำไมถึงเป็นเพลงนี้ และเกิดอะไรขึ้น

เทศกาลประจำปี (年中行事)

รับผิดชอบโดยอาจารย์โอชิโอะ คาสุมิ (押尾 和美) ในช่วงแรกของคาบเรียนนั้นเรียนเกี่ยวกับเทศกาลประจำปีของญี่ปุ่น และเปรียบเทียบกับประเทศของผู้เข้าอบรมแต่ละคน ก่อนจะส่งท้ายคาบเรียนวิชานี้ด้วยการนำเสนอเทศกาลหรือประเพณีของแต่ละประเทศ นอกจากจะได้เรียนรู้ความแตกต่างทางวัฒนธรรมแล้ว ยังทำให้ได้รับรู้จุดร่วมกันของแต่ละประเทศอย่างคาดไม่ถึงอีกด้วย



ภาพการนำเสนอในหัวข้อ “วันสารทเดือนสิบ”

การศึกษาของญี่ปุ่น (教育)

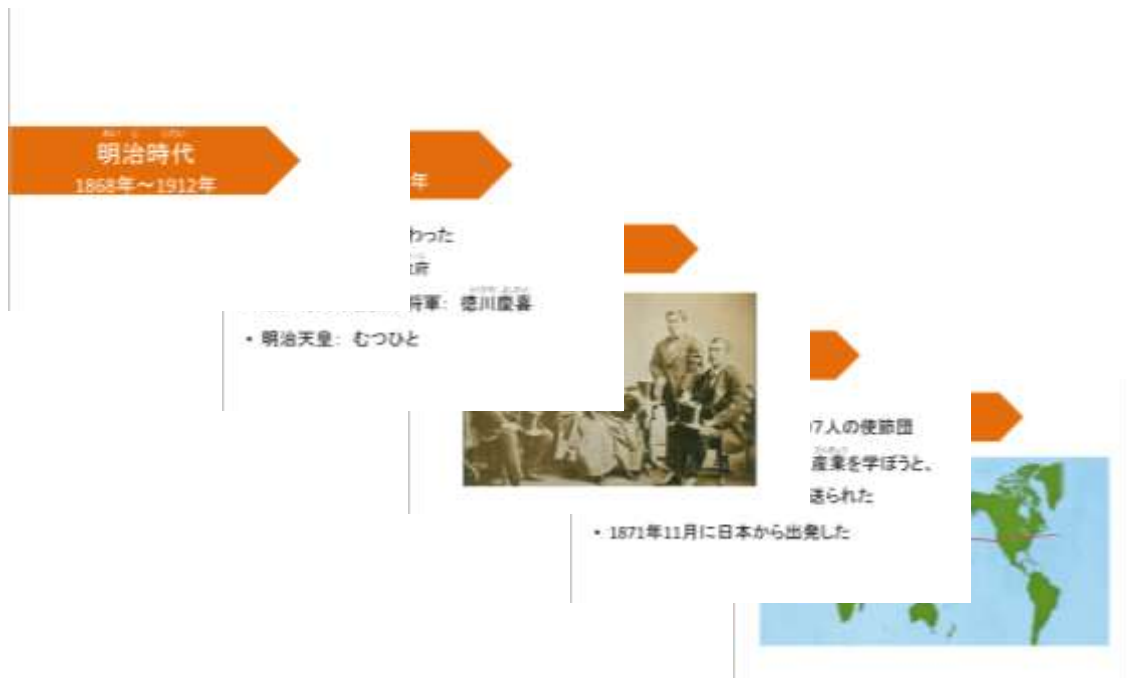
รับผิดชอบโดยอาจารย์โอยะ สุ่มุ (雄谷 進) เริ่มต้นจากการเกริ่นระบบการศึกษาของญี่ปุ่นให้ผู้เข้าอบรมฟัง ก่อนจะให้เปรียบเทียบกับประเทศของตนเอง และเพื่อให้เห็นเป็นรูปธรรมชัดเจนขึ้น อาจารย์ได้ให้ชมภาพยนตร์ที่มีเนื้อหาเกี่ยวข้องกับศึกษาของญี่ปุ่นที่ชื่อว่า 『ブタがいた教室』 (แปลเป็นไทยว่า ห้องเรียนที่เคยมีหมู) ซึ่งอิงเค้าโครงมาจากเรื่องจริง ว่าด้วยอาจารย์คนหนึ่งอยากสอนให้นักเรียนเข้าใจถึงคุณค่าของชีวิต จึงนำหมูมาที่ห้องเรียน และบอกให้นักเรียนทุกคนช่วยกันดูแล แต่มีข้อแม้ว่า เมื่อทุกคนเรียนจบแล้ว เราจะกินหมูตัวนี้กัน หนังสือเรื่องนี้สะท้อนระบบการศึกษาของญี่ปุ่นที่เปิดโอกาสให้เด็กได้แสดงความคิดเห็น และมีส่วนร่วมในฐานะมนุษย์คนหนึ่งโดยไม่กีดกันเรื่องวัยวุฒิ



ประวัติศาสตร์ญี่ปุ่น (日本史)

รับผิดชอบโดยอาจารย์คิจิมะ ฮิโรมิ (来嶋 洋美) เริ่มจากการดูคลิปวิดีโอของ NHK Education ของยุคแรกเริ่มของญี่ปุ่น ก่อนที่จะยุคสมัยที่เหลือจะให้นำเสนอผ่านผู้เข้าอบรมทุก

คน โดยให้แต่ละคนเลือกยุคสมัยที่ต้องการจะนำเสนอ ดุคลิปของยุคสมัยนั้น ๆ แล้วนำข้อมูลที่สรุปได้มานำเสนอในชั้นเรียน ซึ่งอาจจะหาข้อมูลเพิ่มเติมจากแหล่งอ้างอิงอื่นได้



ตัวอย่างสไลด์นำเสนอหัวข้อ “ยุคเมจิ (ครั้งแรก)”

การเล่นคำในภาษาญี่ปุ่น (言葉遊び)

รับผิดชอบโดยอาจารย์โอยะ สสุมุ (雄谷 進) โดยมีเนื้อหาเกี่ยวกับการเล่นคำแบบต่าง ๆ ของญี่ปุ่น เช่น จดหมายรักสามบรรทัด การเล่นต่อคำ เช่น ริวหรือกลอนสั้นรูปแบบหนึ่งของญี่ปุ่นที่ไม่จำเป็นต้องมีสัมผัส ประโยคเสียงสัมผัสอักษรหรือประโยคล้นพัน ทำให้รู้ว่าภาษาญี่ปุ่นก็มีลูกเล่นแบบนี้ และสามารถนำไปเป็นกิจกรรมเสริมในชั้นเรียนได้



ภาพบรรยากาศช่วงเล่นต่อคำ

การเข้าใจความแตกต่างทางวัฒนธรรม (相互理解)

รับผิดชอบโดยอาจารย์คิจิมะ ฮิโรมิ (来嶋 洋美) โดยให้ผู้เข้าอบรมแต่ละคนเลือกหัวข้อที่จะใช้สัมภาษณ์ชาวญี่ปุ่น แล้วจับคู่กับผู้เข้าอบรมด้วยกัน สัมภาษณ์ชาวญี่ปุ่น 2 ท่าน ภายในเวลา 45 นาที จำนวน 2 คู่ แล้วนำข้อมูลที่ได้อาสาสรุป พร้อมแสดงความคิดเห็น และนำมาเล่าให้ผู้เข้าอบรมคนอื่นฟังในชั้นเรียน



ตัวอย่างสไลด์นำเสนอหัวข้อ “การท่องเที่ยว”

วิชาเลือก

มี 2 วิชา คือ สังคมในยุคปัจจุบัน (現代社会) กับการวิจัยเชิงปฏิบัติ (実践研究) โดยตัวเองเลือกเรียนวิชาวิจัยเชิงปฏิบัติ (実践研究) วิชานี้รับผิดชอบโดยอาจารย์สองท่าน คือ อาจารย์ฮัตตะ นาโอมิ () และอาจารย์คิทานิ () เนื้อหาของวิชาเป็นการนำเข้าสู่การวิจัย วิจัยคืออะไร มีวิธีการคิดหัวข้ออย่างไร มีขั้นตอนการทำวิจัยอย่างไร การเก็บข้อมูลเป็นแบบไหนอย่างไร และปิดท้ายด้วยการให้ทุกคนนำเสนอไอเดียหัวข้อวิจัย เนื่องจากชั่วโมงเรียนน้อย จึงทำได้แค่คิดหัวข้อ ไม่สามารถไปถึงการลงมือทำวิจัยขึ้นมาจริง ๆ แต่สามารถนำสิ่งที่เรียนไปต่อยอดทำวิจัยของตัวเองได้ภายในอนาคต



ภาพหมู่กับอาจารย์ผู้สอนและผู้เข้าอบรมห้องเดียวกัน

กิจกรรมบรรยายพิเศษ (特別授業)

นอกจากการเรียนในชั้นเรียนตามที่ได้กล่าวมาข้างต้นแล้วนั้น ทางเจแปนฟาวน์เดชันยังได้จัดกิจกรรมการบรรยายพิเศษให้ผู้เข้าอบรมทุกคนอีกด้วย บางกิจกรรมต้องเข้าร่วมทุกคน บางกิจกรรมสามารถเลือกเข้าร่วมได้ตามความสมัครใจ ซึ่งรายชื่อกิจกรรมที่ได้เข้าร่วม มีดังต่อไปนี้

1. การบรรยายแนะนำเรื่องซูโม่ (相撲入門)

ก่อนที่ทางเจแปนฟาวน์เดชันจะพาผู้เข้าอบรมทุกคนไปดูซูโม่ ได้มีการบรรยายเกี่ยวกับซูโม่ให้ฟังคร่าว ๆ ก่อนโดยอาจารย์อุเอฮาระ (上原) เพื่อที่จะได้เข้าใจคำศัพท์ กติกา เรื่องราวเกี่ยวกับซูโม่ และทำให้สามารถรับชมอย่างมีอรรถรสมากขึ้น

2. Workshop การเขียนพู่กัน (書道 WS)

บรรยายโดยอาจารย์อุจิดะ นอกจากการเขียนพู่กันอย่างชดช้อยสวยงามตามแบบฉบับญี่ปุ่นแล้ว อาจารย์ยังมีช่วงที่ให้ทุกคนเขียนในสไตล์ของตัวเองลงบนพัดด้วย และปิดท้ายด้วยการให้ผู้เข้าอบรมจับกลุ่มกัน เขียนข้อความที่ต้องการบอกให้ทุกคนรับรู้ลงบนกระดาษแผ่นใหญ่ร่วมกันด้วย



ภาพบรรยากาศ Workshop การเขียนพู่กัน

3. งานนำเสนอในหัวข้อ “รู้จักตัวฉัน ประเทศของฉันกันมากขึ้น” (もっと知って、私のこと・私の国発表会)

เป็นงานนำเสนอขนาดใหญ่ของผู้เข้าอบรมทุกคน โดยให้จับกลุ่มกัน แล้วเลือกหัวข้อที่จะนำเสนอเรื่องของตัวเอง หรือประเทศของตัวเอง เพื่อที่จะให้ผู้เข้าอบรมทุกคนได้รู้จักกันมากขึ้น และได้เปิดโลกทัศน์เรื่องราวของประเทศอื่น ๆ ไม่ว่าจะเป็นเชิงภูมิศาสตร์ สถานที่ท่องเที่ยว อาหารพื้นเมือง เรื่องเล่าปรัมปรา ตัวอักษรและภาษา การเดินพื้นเมือง ทำให้ภาพพจน์ที่เคยมีต่อประเทศนั้น ๆ เปลี่ยนไป และเข้าใจกันมากขึ้น



ภาพบรรยากาศกิจกรรมงานนำเสนอในหัวข้อ “รู้จักตัวฉัน ประเทศของฉันกันมากขึ้น”

4. การบรรยายเรื่องข้อสอบวัดระดับความสามารถทางภาษาญี่ปุ่น (JLPT 説明会)

บรรยายโดยอาจารย์อาซามิ (浅見) ว่าข้อสอบวัดระดับความสามารถทางภาษาญี่ปุ่นคืออะไร มีไว้เพื่อจุดประสงค์ใด รวมถึงเกณฑ์การให้คะแนนของข้อสอบที่คนส่วนมากไม่ทราบถึงจุดนี้กัน



เอกสารประกอบการบรรยาย

5. แนะนำเว็บไซต์ที่ทางเจแปนฟาวน์เดชันจัดทำขึ้น (基金サイト紹介)

บรรยายโดยอาจารย์อาริมะ จุนอิชิ (有馬 淳一) โดยอาจารย์ได้แนะนำเว็บไซต์ที่ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดทำขึ้นมาให้ผู้เข้าอบรมได้รู้จักกัน แต่ละเว็บไซต์เป็นเว็บไซต์ที่รวบรวมสื่อการสอน เทคนิคต่าง ๆ รวมถึงเป็นเว็บไซต์ที่สามารถเป็นสื่อการสอนได้เองเลยก็มี สามารถเข้าไปดูเพิ่มเติมได้ที่เว็บไซต์ <http://www.jpf.go.jp/j/urawa/links/index.html>

6. Workshop วันปีใหม่ของญี่ปุ่น (日本のお正月 WS)

หลังจากวันหยุดฤดูหนาวผ่านไป ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดกิจกรรมวันปีใหม่ให้กับผู้เข้าอบรมทุกคน โดยทุกคนจะได้สัมผัสกับอาหารที่ทานกันในช่วงวันขึ้นปีใหม่ การเล่นที่เล่นกันในช่วงปีใหม่ เช่น เกมไฟคารุตะ (かるた) เกมตีลูกขนไก่ (羽根突き) คล้ายกีฬาแบดมินตัน แต่แร็คเกิดเป็นไม้ และมีขนาดเล็กกว่ามาก เกมลูกข่าง (独楽) เกมสุโกะโระซุ (双六) ซึ่งมีหน้าตาคล้ายเกมบันไดงู และเกมฟูคะวะไร (福笑い) เป็นเกมที่ให้ผู้เล่นใช้ผ้าปิดตาแล้วจับเรียงชิ้นส่วนต่าง ๆ บนใบหน้าเรียงให้เป็นใบหน้าโดยที่มองไม่เห็นทั้งอย่างนั้น



ภาพการเล่นต่าง ๆ ในช่วงวันปีใหม่ญี่ปุ่น
(ตามลำดับ) เกมฟุคะะโร เกมสุโกะโระซุ และเกมตีลูกขนไก่

7. การรายงานผลการสำรวจความเกี่ยวข้องระหว่าง JFS – JLPT (JFS – JLPT 連関調査の結果報告)

บรรยายโดยอาจารย์ฮาตาโนะ (波多野) โดยมีเนื้อหาเกี่ยวกับ JF Standard for Japanese-Language Education (JFS) กับการสอบวัดระดับความสามารถทางภาษาญี่ปุ่น (JLPT) ว่ามีความสัมพันธ์กันอย่างไร ทำไมบางคนที่สอบ JLPT ผ่านในระดับสูง กลับได้รับการประเมินจากเกณฑ์ JFS ในระดับต่ำ หรือทำไมบางคนที่ได้รับการประเมิน JFS ในระดับสูง กลับสอบตกในระดับต่ำของ JLPT เนื่องจากข้อสอบในส่วนของ JLPT จะเน้นไปที่ ไวยากรณ์ คำศัพท์ การอ่าน และการฟังในรูปแบบของตัวเลือกให้เลือกทำ แต่ในส่วนของ การประเมินด้วยเกณฑ์ JFS จะมีส่วนของการเขียนและการพูดเข้ามาด้วย จึงไม่แปลกที่ทำไมถึงเกิดความแตกต่างได้ถึงขนาดนั้นได้

8. การบรรยายแนะนำเรื่องรากุโกะ (落語入門)

บรรยายโดยอาจารย์ฮามาดะ โนริโกะ (濱田 典子) โดยอธิบายว่ารากุโกะคืออะไร รากุโกะคล้ายทอล์คโชว์ตลก ที่จะมีผู้พูดเพียงคนเดียว แต่จะนั่งอยู่กับที่และเล่าเรื่องตลกไป บางครั้งมีการสวมบทบาทเป็นตัวละครอื่น ๆ ด้วย ปกติแล้วมักจะเป็นสำเนียงคันไซ และ ความเร็วในการพูดสูงมาก นอกจากจะอธิบายว่ามันคืออะไรแล้ว ยังมีช่วงที่ให้ทุกคนลองพูด รากุโกะอย่างง่ายดูด้วย



ภาพบรรยายภาคกิจกรรมระหว่างการบรรยายแนะนำเรื่องรากุโกะ

9. ภูมิศาสตร์และประวัติศาสตร์ญี่ปุ่น (日本の地理と歴史)

บรรยายโดยผู้ดูแลผู้เข้าอบรมทุกคนในครั้งนี้ คุณโอโนะ ยูกิโกะ (小野 由紀子) ในช่วงแรกพูดถึงภาพรวมของประเทศญี่ปุ่น ก่อนจะโฟกัสไปที่ภูมิภาคคันไซ เนื่องจากผู้เข้าอบรมทุกคนจะได้ไปทัศนศึกษาออกสถานที่ที่คันไซ จึงมีการบรรยายเพื่อให้มีพื้นฐานความรู้ของสถานที่ที่จะไป จะได้เข้าใจบริบทแวดล้อมและเตรียมตัวได้ดีขึ้น



ภาพบรรยายภาคการบรรยายภูมิศาสตร์และประวัติศาสตร์ญี่ปุ่น

การเข้าร่วมกิจกรรมทางวัฒนธรรม (文化体験)

นอกจากการเรียนในชั้นเรียนและการบรรยายในหัวข้อพิเศษแล้ว ทางเจแปนฟาวน์เดชันยังมีกิจกรรมหรือพาผู้เข้าอบรมไปทัศนศึกษาออกสถานที่ เพื่อสัมผัสกับสภาพสังคมและวัฒนธรรมของญี่ปุ่นด้วยตัวเองอีกด้วย โดยมีรายละเอียดดังต่อไปนี้

1. ทัศนศึกษาจังหวัดไซตามะ (埼玉見学)

ในวันที่ 11 กันยายน 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้พาผู้เข้าอบรมทุกคนไปสถานที่ต่างๆ ในจังหวัดไซตามะ สถานที่แรกที่พาไปเยี่ยมชมคือ พิพิธภัณฑ์บอนไซ (さいたま市大宮盆栽美術館) ซึ่งทำให้ได้ทราบถึงความเป็นมาของบอนไซ ชนิดของบอนไซ วิธีการเลี้ยงบอนไซ อีกทั้งยังได้เห็นบอนไซของจริงอีกด้วย นอกจากนี้ บริเวณโดยรอบของพิพิธภัณฑ์นั้นก็เป็นหมู่บ้านบอนไซ โดยมีอาสาสมัครชาวญี่ปุ่นเป็นคนพาชมหมู่บ้านโดยรอบ

สถานที่ถัดมาคือ เมืองคาวาโกเอะ (川越) ซึ่งมีย่านหนึ่งที่มิกลื่นอายุความเป็นย่านตลาดยุคเก่า ตัวอาคารเป็นสถาปัตยกรรมสมัยยุคเอโดะ จึงถูกขนานนามว่า “เอโดะจิ๋ว” และยังมีพิพิธภัณฑ์ที่จัดแสดงเกี่ยวกับเทศกาล คาวาโกเอะที่จัดขึ้นทุกวันอาทิตย์ที่สามเดือนตุลาคมของทุกปี ซึ่งเป็น 1 ใน 3 เทศกาลใหญ่ประจำภูมิภาคคันโตอีกด้วย



ภาพบรรยากาศทัศนศึกษา (ตามลำดับ) พิพิธภัณฑ์บอนไซ หมู่บ้านบอนไซ และเมืองคาวาโกเอะ

2. ชมยิงธนูบนหลังม้า (流鏝馬)

ในวันที่ 1 ตุลาคม 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้พาผู้เข้าอบรมทุกคนไปศาลเจ้าสิรุกาโอะกะฮาจิมังกุ (鶴岡八幡宮) ที่เมืองคามาคุระ จังหวัดคานากาวะ เพื่อเข้าศึกษาและชมการยิงธนูบนหลังม้า ซึ่งเป็นเทศกาลที่เก่าแก่ เดิมทีเป็น 1 ใน 3 กีฬาของซามูไร โดยที่ผู้ยิงธนูจะขึ้นขี่ม้าและควมม้าด้วยความเร็วสูงบนทางตรงที่กำหนดไว้ และต้องยิงธนูให้เข้าเป้าซึ่งมีอยู่ 3 เป้าด้วยกัน ถือว่าต้องอาศัยทั้งความชำนาญ การทรงตัว และความแม่นยำอย่างมากเลยทีเดียว



ภาพบรรยากาศการศึกษาศาลเจ้า และการยิงธนูบนหลังม้า

3. ชมการแข่งขันซูโม่ (大相撲国際交流イベント)

ในวันที่ 4 ตุลาคม 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้พาผู้เข้าอบรมทุกคนไปชมการแข่งขันซูโม่ที่สนามกีฬาแห่งชาติเรียวกังชู ในย่านเรียวกังชู กรุงโตเกียว ทำให้ทุกคนได้สัมผัสซูโม่ด้วยตาของตัวเอง นอกจากคนญี่ปุ่นแล้ว คนต่างชาติก็ให้ความสนใจกันอย่างล้นหลาม สังเกตได้จากกลุ่มคนดูที่มีชาวต่างชาติอยู่มากมาย และถูกสัมภาษณ์จากนักข่าวทั้งทางโทรทัศน์และทางวิทยุ



บรรยากาศการแข่งขันซูโม่ทั้งด้านนอกสนามกีฬา และระหว่างการแข่งขัน

4. กิจกรรมสวมชุดยูกาตะ (浴衣着付け)

ในวันที่ 11 ตุลาคม 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดกิจกรรมให้ผู้เข้าอบรมทุกคนได้ลองสวมชุดยูกาตะกัน โดยมีอาสาสมัครชาวญี่ปุ่นมาสาธิตและสอนวิธีการใส่และพับเก็บชุดยูกาตะให้ จากนั้นให้ทุกคนลองสวมใส่ด้วยตัวเอง ถ้าใครที่ติดขัดหรือไม่สามารถทำได้ อาสาสมัครชาวญี่ปุ่นจะคอยดูและช่วยเหลือและให้คำแนะนำอย่างดี



ภาพบรรยากาศกิจกรรมสวมชุดยูกาตะ และภาพหมู่กับอาสาสมัครชาวญี่ปุ่น

5. พิธีชงชา (茶道)

ในวันที่ 13 ตุลาคม 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดกิจกรรมให้ผู้เข้าอบรมทุกคนได้สัมผัสพิธีชงชากัน ตั้งแต่ขั้นตอนในการชงชา วิธีการตีเมชา และผลัดกันชงชาในบรรดาผู้เข้าอบรมด้วยกัน หลังจบจากพิธีชงชา ก็มีช่วงที่ให้ชมวีดิทัศน์เกี่ยวกับพิธีการชงชาแบบเต็มรูปแบบอีกด้วย



ภาพถ่ายขณะที่ทานพร้อมชากับบรรยากาศที่ผู้เข้าอบรมลองชงชาให้ดื่มกันเอง

6. เยี่ยมชมโรงเรียนมัธยมปลาย (高校訪問)

ในวันที่ 1 เดือนพฤศจิกายน 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้พาผู้เข้าอบรมทุกคนไปเยี่ยมชมโรงเรียนมัธยมปลายคิตะโมโตะ (北本高等学校) เพื่อที่จะให้ผู้เข้าอบรมทุกคนได้สัมผัสกับบรรยากาศโรงเรียนญี่ปุ่น ทั้งภาพรวมและบรรยากาศการเรียนภายในชั้นเรียน มีกิจกรรมพูดคุยแลกเปลี่ยนทางวัฒนธรรมกับเหล่านักเรียนด้วย



ภาพบรรยากาศการเรียนเยี่ยมชมโรงเรียนมัธยมปลายคิตะโมโตะ

7. โฮมสเตย์ (ホームステイ)

ในวันที่ 11 – 12 พฤศจิกายน 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดกิจกรรมโฮมสเตย์ให้กับผู้เข้าอบรมที่สนใจเข้าร่วม โดยแต่ละคนจะมีโฮสต์แฟมิลีหนึ่งครอบครัวมารับไปอยู่เป็นเวลา 2 วัน 1 คืน โดยโฮสต์แฟมิลีเป็นอาสาสมัครชาวญี่ปุ่นในเขตจังหวัดไซตามะนั่นเอง ในส่วนของตัวเออนั้น ได้โฮสต์แฟมิลีที่อยู่เมืองวาราบี ซึ่งอยู่ห่างออกไปจากเซ็นเตอร์ของเจแปนฟาวน์เดชันประมาณ 3 สถานีรถไฟ เป็นครอบครัว 4 คน คือ พ่อ แม่ ลูกสาวคนโต และลูกชายคนเล็ก ทุกคนให้การต้อนรับและดูแลดีมาก



ภาพถ่ายกับคุณแม่และลูกสาวโฮสต์แฟมิลี

8. ทักษะศึกษาที่นิคโค (地方研修 – 日光)

ในวันที่ 24 - 25 พฤศจิกายน 2560 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้พาผู้เข้าอบรมทุกคนไปเมืองนิคโค จังหวัดโทจิกิ เป็นระยะเวลา 2 วัน 1 คืน โดยออกเดินทางเช้าวันที่ 24 พฤศจิกายน ด้วยรถบัส สถานที่ที่ระบุไว้ในโปรแกรมมี ศาลเจ้านิคโคโทโชกุ (日光東照宮) ซึ่งได้รับการขึ้นเป็นมรดกโลกโดย UNESCO ต่อมาคือน้ำตกเซะกง (華嚴の滝) ที่ขึ้นชื่อ และเข้าวันรุ่งขึ้น เป็นทะเลสาบจูเซ็นจิ (中禅寺湖) ซึ่งอยู่ด้านบนของน้ำตกเซะกง ว่ากันว่าเป็นทะเลสาบที่อยู่สูงที่สุดจากระดับน้ำทะเล ก่อนจะไปปิดท้ายด้วยกิจกรรมปั้นเครื่องปั้นดินเผา ที่ทุกคนมีโอกาสได้ลองปั้นเครื่องปั้นดินเผา ไม่ว่าจะเป็น แก้ว จาน ชาม หรือตุ๊กตาด้วยตัวเอง กลายเป็นผลงานที่มีเพียงชิ้นเดียวในโลก



ภาพบรรยากาศในวันแรก
(ตามลำดับ) ศาลเจ้านิคโคโทโชกุ น้ำตกเซงก และภาพหมู่หลังสงครามหิมะหน้าโรงแรมที่พัก



ภาพบรรยากาศในวันที่สอง
(ตามลำดับ) ทะเลสาบจูเซ็นจิ ภาพบรรยากาศการทำเครื่องปั้นดินเผา และผลงานของตัวเอง

9. การแสดงซามิเซ็น (三味線)

ในวันที่ 6 ธันวาคม 2560 ผู้เข้าอบรมทุกคนได้มีโอกาสชมการแสดงซามิเซ็น หรือ เครื่องดนตรีสามสายของญี่ปุ่น โดยคุณยามานากะ โนบุโตะ (山中信人) ซึ่งเป็นผู้เชี่ยวชาญการเล่นซามิเซ็น นอกจากจะได้ชมการแสดงที่สุดยอดแล้ว ทุกคนยังมีโอกาสได้ลองเล่นเครื่องดนตรีซามิเซ็นด้วยตัวเองอีกด้วย



ภาพบรรยากาศการบรรเลงซามิเซ็น และภาพหมู่กับคุณยามานากะ

10. เยี่ยมชมโรงเรียนประถม (小学校訪問)

ในวันที่ 17 มกราคม 2561 ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดให้ผู้เข้าอบรมทุกคนไปเยี่ยมชมโรงเรียนประถม โดยแบ่งออกเป็น 3 กลุ่ม 3 โรงเรียน ได้แก่ โรงเรียนประถมมิซึโตะ (道祖土小学校) โรงเรียนประถมชิบิรากิ (新開小学校) และโรงเรียนประถมโอบุโอะฮิงาชิ (大久保東小学校) โดยตัวเองได้ไปเยี่ยมชมโรงเรียนประถมมิซึโตะ และชั้นเรียนที่ได้เข้าร่วมกิจกรรมพร้อมกับผู้เข้าอบรมชาวบัลแกเรียและชาวนิการากัวอีกสองคน คือ ชั้นประถมศึกษาปีที่ 6 โดยในช่วงแรกเป็นการแนะนำประเทศของตัวเองให้เด็ก ๆ ได้รู้จัก ก่อนที่ช่วงพักกลางวันจะไปทานอาหารกลางวันร่วมกับชั้นประถม 6 ห้อง 1 และสังเกตการเรียนการสอน รวมถึงทำกิจกรรมและทำความสะอาดห้องเรียนร่วมกับเด็ก ๆ ห้องนั้น



ภาพบรรยากาศกิจกรรมแนะนำประเทศของตัวเอง และ บรรยากาศชั่วโมงเรียนชั้นประถม 6 ห้อง 1

11. การแสดงกลองไทโกะ (和太鼓)

ในวันที่ 24 มกราคม 2561 ผู้เข้าอบรมทุกคนได้มีโอกาสชมการแสดงกลองไทโกะ โดยวงฮิบิกิ (響) ซึ่งมีความชำนาญในการตีกลองไทโกะหลากหลายรูปแบบ นอกจากจะได้รับชมการแสดงอันทรงพลังแล้ว ยังมีช่วงที่เปิดโอกาสให้ผู้เข้าอบรมทุกคนได้ลองตีกลองไทโกะด้วย



ภาพบรรยากาศการแสดงกลองไทโกะ และภาพบรรยากาศของผู้เข้าร่วมอบรมลองตีกลองไทโกะด้วยตนเอง

12. ทักษะศึกษาศาสตร์ภาคคันไซ (地方研修 – 関西)

ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดให้มีการศึกษาศาสตร์ภาคคันไซขึ้นในวันที่ 19 – 22 กุมภาพันธ์ 2561 เป็นระยะเวลา 4 วัน 3 คืน ซึ่งถือเป็นกิจกรรมส่งท้ายของผู้เข้าร่วมอบรมทุกคน เป้าหมายหลัก ๆ คือ จังหวัดเกียวโต และจังหวัดนารา เดินทางจากเซ็นเตอร์ไปถึงสถานีรถไฟโตเกียวโดยรถบัส ก่อนจะนั่งชินคันเซ็นจากโตเกียวไปเกียวโต รายละเอียดของแต่ละวัน มีดังต่อไปนี้

วันที่ 19 กุมภาพันธ์ หลังจากเดินทางถึงสถานีรถไฟเกียวโตแล้ว ก็เดินทางโดยรถบัสไปยังคินคะซุจิ (金閣寺) หรือวัดทอง ซึ่งเป็นที่รู้จักกันดีจากการ์ตูนเรื่องอิคคิวซัง ตามมาด้วยพิพิธภัณฑ์หนังสือการ์ตูน (京都国際マンガミュージアム) ซึ่งเดิมทีเป็นอาคารโรงเรียนเก่า แต่ได้รับการบูรณะและกลายเป็นพิพิธภัณฑ์ที่รวบรวมหนังสือการ์ตูนของญี่ปุ่นตั้งแต่ยุคแรกเอาไว้ ไม่เพียงแค่นั้น หนังสือการ์ตูนของญี่ปุ่นเท่านั้น หนังสือการ์ตูนญี่ปุ่นที่ได้รับการแปลเป็นภาษาอื่น ๆ และหนังสือการ์ตูนของฝั่งยุโรปเองก็มีอยู่ที่นั่นเช่นกัน



ภาพหมู่กับผู้เข้าร่วมอบรมคนอื่นที่วัดคิงคะซุจิและพิพิธภัณฑ์หนังสือการ์ตูน

วันที่ 20 กุมภาพันธ์ เดินทางจากที่พักที่เกียวโตไปนาราโดยรถบัส โดยในช่วงเช้าจะเป็นกิจกรรม Workshop หมึกทำมือ (にぎり墨) เดิมทีแล้วนาราขึ้นชื่อเรื่องผลิตน้ำหมึกที่เอาไว้เขียนฟูกันแบบญี่ปุ่น ซึ่งหน้าตาจะเป็นแท่งสี่เหลี่ยมสีดำ แต่หมึกทำมือในคราวนี้จะมีหน้าตาที่เป็นเอกลักษณ์เฉพาะตัวโดยขึ้นอยู่กับมือของแต่ละคน เพราะใช้ฝ่ามือของคน ๆ นั้นในการขึ้นรูปแท่งหมึกนั่นเอง ส่วนในช่วงบ่ายนั้นได้เดินทางไปยังวัดโทไดจิ (東大寺) ซึ่งได้รับการขึ้นเป็นมรดกโลกโดย UNESCO และเป็นวัดที่เป็นอาคารไม้ที่ใหญ่ที่สุดในโลก ก่อนจะเป็นช่วงตามอัธยาศัย โดยตัวเองได้ตัดสินใจเดินสำรวจบริเวณใกล้เคียงซึ่งมีศาลเจ้าและวัดอยู่อีกมากมาย หนึ่งในนั้นมีชื่อเสียงก็คือ ศาลเจ้าคะสะงะไทฉะ (春日大社) ซึ่งได้รับการขึ้นเป็นมรดกโลกเช่นเดียวกัน



ภาพหน้าตาของหมึกทำมือ (นิกิริสุมิ) และขั้นตอนการขึ้นรูปด้วยการบิบด้วยฝ่ามือของตัวเอง



ภาพของวัดโทไดจิ และศาลเจ้าคะสึงะไทฉะ ที่ได้รับการขึ้นเป็นมรดกโลกทั้งคู่ และบรรดากวางที่อยู่รายล้อมในบริเวณนั้น

วันที่ 21 กุมภาพันธ์ เป็นวันที่ให้ผู้เข้าอบรมเลือกเที่ยวชมในเกียวโตตามอัธยาศัย ตัวเองและ
ผู้เข้าร่วมอบรมอีกสองคนได้เดินทางไปยังวัดซังจูซังเกินโด (三十三間堂) ซึ่งเป็นวัดที่มีตัววิหารยาว
มาก ภายในวิหารประดิษฐานพระโพธิสัตว์กวนอิมพันมือ พร้อมเหล่าสาวกอีกหนึ่งพัน ซึ่งองค์รูปหล่อมี
ความวิจิตรและมีรายละเอียดอย่างมาก ส่วนในช่วงบ่าย ได้เดินทางไปยังเมืองอุจิ (宇治) ซึ่งเป็นที่ตั้งของ
วัดเบียวโดอิง (平等院) ซึ่งก็เป็นหนึ่งในวัดที่ได้รับการขึ้นเป็นมรดกโลกโดย UNESCO ตัววัด ภายใน
อาคารหลักของวัดเบียวโดอิง หรือก็คือ ศาลาหงส์ มีจิตรกรรมฝาผนังที่สวยงาม ใช้สีสันสดซึ่งให้
ความรู้สึกใกล้เคียงกับจิตรกรรมฝาผนังของวัดไทยมากที่สุด



ภาพของวัดซังจูซังเกินโด และ วัดเบียวโดอิง ตามลำดับ

วันที่ 22 กุมภาพันธ์ วันสุดท้ายของการทัศนศึกษาภูมิภาคคันไซ โปรแกรมวันนี้กลับมาอยู่ที่เกียวโตอีกครั้ง นั่งรถบัสออกจากที่พักที่เกียวโต ลงไปที่เมืองฟูชิมิ เพื่อไปสักการะศาลเจ้าฟูชิมิอินาริไทฉะ (伏見稲荷大社) ซึ่งขึ้นชื่อเรื่องมีเสาโทริอิเรียงรายอยู่มากมายจนเป็นเอกลักษณ์ของศาลเจ้าแห่งนี้ หลังจากนั้นจึงกลับโตเกียวโดยรถไฟชินคันเซ็นเซ็นเซินเดิม และนั่งรถบัสจากสถานีโตเกียวกลับเซ็นเตอร์ โดยสวัสดิภาพ



ภาพหมู่กับผู้เข้าร่วมอบรมกลุ่มที่เรียนภาษาญี่ปุ่นด้วยกัน (คอร์ส B1) กับภาพของเสาโทริอิที่เรียงรายสุด
สายตา

พิธีมอบใบประกาศนียบัตร (終了式)

พิธีมอบใบประกาศนียบัตรจัดขึ้นในช่วงเช้าวันพุธที่ 28 กุมภาพันธ์ 2561 โดยในพิธีนี้ได้รับเกียรติจากคุณสนาคาวะ ยูอิชิ (砂川 裕一) ผู้อำนวยการเจแปนฟาวน์เดชัน ศูนย์ภาษาญี่ปุ่น อูราวะ มอบใบประกาศนียบัตรให้ผู้เข้าร่วมอบรมในโครงการ 2017 – 2018 Long-Term Training Program for Foreign Teachers of the Japanese Language ทั้ง 40 คน



งานเลี้ยงอำลา (歡送会)

ในช่วงเย็นของวันพุธที่ 28 กุมภาพันธ์ 2561 เดียวกันนี้ ทางเจแปนฟาวน์เดชันได้จัดงานเลี้ยงอำลาให้กับผู้เข้าร่วมอบรมทุกคน โดยได้เชิญโฮสต์แฟมิลีของทุกคนมาเป็นแขกในงานนี้ด้วย รวมถึงมีการแสดงจากผู้เข้าร่วมอบรมให้แก่ทุกคนอีกด้วย



ภาพถ่ายร่วมกับคุณแม่ ลูกสาว และลูกชายโฮสต์แฟมิล



ภาพการแสดงชุดแรก การร้องเพลง โดยชาวอินโดนีเซีย ชาวอินเดีย ชาวฟิลิปปินส์ และชาวเอลซัลวาดอร์



ภาพการแสดงชุดที่สอง การเต้นโยชาโคยผสานการเต้นพื้นเมืองของชาวลาว ชาวอินโดนีเซีย ชาวเวียดนาม และชาวศรีลังกา